

## レジリエンスに関する問題点と課題

SW レジリエンス研究会代表 秋山 薊二

本 Web サイトで、レジリエンスの一般的概念やソーシャルワーク視点からの解説を行っているが、無定型にこれを鵜呑みにしている訳ではない。レジリエンスの新しい視点の基本は、問題を構成する負の側面のみに焦点を当てるのではなく、困難を乗り越えた人々、家族、地域などが何故困難を克服したのか、その要因である保護要因（プロテクト・ファクター）を軸に問題・困難に対処しようとするところにある。

ストレングス視点研究の第一人者 Saleebay(2013 pp.211-212) は、近刊の中でレジリエンスの定義では、「深刻な逆境・難事 (adversity) に直面しても前向き(positive)な適応を果たすダイナミックな過程」(Luther et al. 2000<筆者訳、Web は石井訳>) とするが、これは二つの構成要素を含むため、レジリエンスを複雑なものにしていると述べている。即ち、レジリエンスは「深刻な逆境・難事 (adversity)」と「前向きな適応(positive adaptation)」の二つの鍵となる概念を並立させ包摂するため、実践運用上、また調査研究上、混沌とした状況になると指摘している。二つの構成要素を同時にアセスメントもしくは測定することは現実的には極めて困難で、Saleebay の指摘は正鵠を得たものと言えよう。

この指摘には、レジリエンス研究を行う者に対する警鐘が内包している。ソーシャルワーカーは子どものみを扱うわけではない。またクライアントの主観と客観(生活背景・生活環境)、ワーカーの主観と客観(統計数値やパラメーター)の相克を解決しなければならないであろう。そのために我々が克服しなければならない課題は次の様なものが挙げられる。

1. **Adversity** を逆境（不幸な生い立ち）、ストレスの多い劣悪な環境などの抽象的な理解、被虐待・被暴力の悲惨な体験などの矮小化した理解することに再思三校が求められる。また、リスクの理解も同様で、貧困や家庭破壊などの環境が子どもの健全な育成にとってリスク要因であることなど、誰もが知る当然至極の事であり、また統計的、経験的に自明のことである。その好ましくない影響を減殺する努力やサービス提供は、従来の子ども家庭福祉やソーシャルワークで行なってきた。従来と同じ問題理解であるとするなら、名称を **adversity** や **risk** に変えてもソーシャルワーク実践の内容に何の変哲もない。更に、レジリエンスを使う学問・研究分野によって、**adversity** の意味概念に差異が生じている。**Adversity** はレジリエンスにとって要となる概念であることから、この概念を明瞭に定義する事が必要である。定義には一般的概念定義と運用上の概念定義の二種がある。ソーシャルワークにおいてはミクロでさえ、児童、障害者、高齢者、疾病者、低所得者など多様なクライアントを内包する。また、メゾでは市町村地域、地区、町内会などを対象にする。更に政策問題に入れば、自ずと **adversity** やリスクの概念は変わる。一般的概念定義と運用上の概念定義を峻別し、それぞれのソーシャルワーク実践の運用に即した、概念定義が必要となるであろう。もし **adversity** 概念が曖昧であるが故に、従属変数の如く揺れが発生するならば、レジリエンスはその意義を失い、実践とりわけアセスメントが不定形なものになる懸念は大きい。Saleebay は「深刻な困難 (significant adversity)」とは何か、リスクの高い要素の判断に個人の主観などが入り特定出来ないのが、容易に定義できないと述べている。だが、範域措定により、解決の道筋は立つと思量される。

2. もう一つの指摘は、鍵となる概念「前向きの適応 (positive adaptation)」状態の不明瞭な概念に向けられたものである。合意による、適応しているとの判断だとしても、合意という曖昧な麗句は、それがクライアントの主観とワーカーの主観の優劣を覆い隠す。また、客観的指標の有無が問われるが適応状態を判定する方法は多様で、どのように適応状態を測るのか、もしくはどのように定義するかが焦点になろう。だが、これはソーシャルワークが歴史的に抱える問題であり、問題が解決したと判断する評価基準を問うているのと同じであると思われる。更なる問いは、前向きの適応の結果は、真に **adversity** の遭遇により生まれたものなのか、その関係性の説明を問うている。これは逆に、順境（逆境の反意語、**rich protective environments**）にありながら、難事 (**adversity**) 遭遇の際、前向きな適応が出来なかった人を、レジリエンスではどう説明し対処するか、を問うているのと同義である。

Saleebay のレジリエンス理解が完全無欠とはいえないが、問題指摘や批判は研究内容を向上させ、精緻なものへと高めるエネルギーの源である。これらの基本的課題を克服することこそ、レジリエンス研究者のレジリエンスであると考えられる。